

平成17年度 事業決算

科目 / 事業	決算(千円)	備 考
事業費総計	506,652	
①水産試験場費	467,819	
水産試験場職員費	343,464	
" 運営費	25,443	
" 整備費	50,074	補助 (11,052)
水産調査試験研究費	48,838	
(漁業室)	(26,718)	
パヤオ周辺でのマグロ類遊泳行動調査	1,957	県 単
ソデイカ漁業総合対策調査	4,677	県 単
アオダイ等資源回復推進調査	1,095	県 単
漁獲情報収集管理事業	317	県 単
漁場探索支援事業	1,609	県 単
新漁業管理制度推進情報提供事業	1,772	補 助
海洋動態解析事業	1,244	補 助
日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査	1,500	受 託
沖合海域海洋観測調査	8,547	受 託
マグロ類回遊行動生態調査	4,000	受 託
(増殖室)	(9,987)	
新養殖管理技術開発試験	1,343	県 単
スギ養殖技術確立試験	1,659	県 単
モズク類生育指標の探索試験	1,391	県 単
養殖魚介類の耐病性試験	2,043	県 単
養殖漁場環境調査	1,417	県 単
藻場造成基礎試験	683	県 単
特定海域海産生物放射能調査	1,451	受 託
(八重山支場)	(12,133)	
タマカイ種苗生産技術開発試験	5,026	県 単
シヤコガイ母貝の成熟制御技術試験	736	県 単
クロチョウガイ疾病対策試験	869	県 単
海洋保護区に関する調査研究	1,502	受 託
大型ハタ類の性転換・性成熟研究	4,000	受 託
②行政対応等事業費	38,833	
(庶務課)	(1,903)	
運営費等	1,903	県 単(農・漁)
(漁業室)	(6,824)	
広域漁場整備事業	1,441	補 助(漁)
資源管理型漁業推進総合対策事業	1,173	交付金(水)
ソデイカ等特産化総合対策事業	2,814	交付金(水)
耐久性浮魚礁魚礁管理事業	1,396	県 単(漁)
(増殖室)	(13,749)	
養殖水産動物保健対策推進事業	5,079	交付金(水)
広域漁場整備事業	210	補 助(水)
資源増大技術開発事業(シラヒゲウニ)	3,636	県 単(水)
養殖ヤイトハタ等ブランド化推進技術開発事業	4,206	交付金(水)
亜熱帯生物資源の高度利用技術の開発	618	補 助(科)
(八重山支場)	(16,357)	
資源増大技術開発事業(ヤコウガイ)	763	県 単(水)
漁業管理情報基礎調査(イセエビ・シラナミ)	650	県 単(水)
栽培漁業推進対策事業(スジアラ)	747	補 助(水)
ヤイトハタ及びヒメジャコ種苗生産事業	12,196	県 単(水)
シヤコガイ増養殖技術開発事業	2,001	県 単(漁)

受託:受託事業予算、補助:国庫補助事業予算、交付金:交付金事業予算、県単:県単独事業予算
(水):水産課予算、(漁):漁港漁場課予算、(農):農林水産企画課予算、(科):科学技術振興課予算

[沿革]

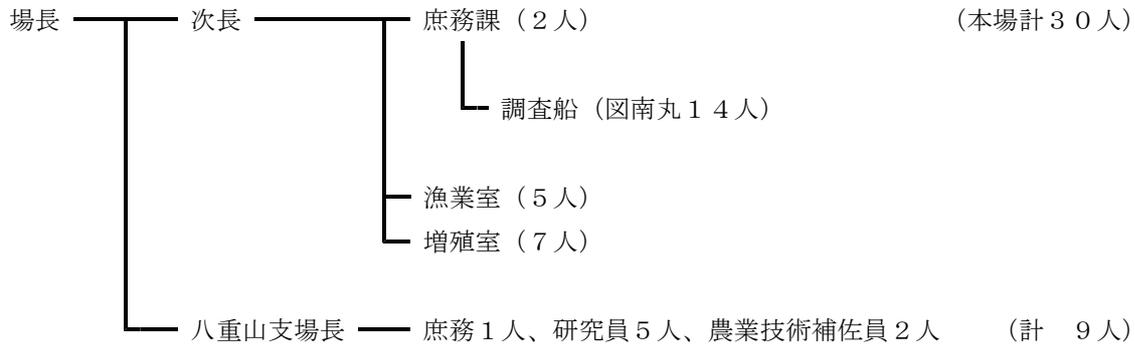
大正10年 (1921)	4月	沖縄県水産試験場設立, 事務所を県庁内に置く
昭和2年 (1927)	11月	調査船初代「凶南丸」100トン竣工
3年 (1928)	3月	那覇市垣花町に庁舎新築
19年 (1944)	12月	空襲により焼失
23年 (1948)	7月	沖縄水産試験場として再出発, 事務所を沖縄民政府内に置く
25年 (1950)	4月	琉球水産研究所に改称
27年 (1952)	3月	佐敷町馬天に庁舎新築移転
32年 (1957)	5月	那覇市泊に庁舎新築移転
35年 (1960)	5月	調査船第2代「凶南丸」159トン竣工
41年 (1966)	8月	調査船初代「くろしお」21トン竣工
	10月	石垣市に支場として八重山水産模範養殖場設置 (日政援助) 本場の研究室をこれまでの漁労・製造・増殖の3部門から資源調査が 加わり4研究室となる。さらに庶務課が設置される
45年 (1970)	1月	琉球水産研究所, 同八重山支所に改称
	10月	琉球水産試験場, 同八重山支場に改称
47年 (1972)	4月	復帰に伴い沖縄県水産試験場及び同八重山支場に改称 本場は1課4研究室体制から1課2室体制となる
49年 (1974)	8月	糸満市に本場庁舎新築移転 (国庫1/2)
50年 (1975)	1月	調査船第3代「凶南丸」216トン竣工
55年 (1980)	3月	調査船第2代「くろしお」34トン竣工
58年 (1983)	4月	本部町に栽培漁業センター (支場) 開設
63年 (1988)	4月	同センターとして独立
平成元年 (1989)	3月	大型飼育棟新設 (国庫1/2 本場)
4年 (1992)	3月	第2研究棟新設 (国庫1/2 八重山支場)
5年 (1993)	9月	八重山支場全面増改築開始
7年 (1995)	3月	調査船第4代「凶南丸」176トン竣工
8年 (1996)	2月	調査船「くろしお」34トン廃船
	3月	八重山支場全面改築竣工
13年 (2001)	4月	水産業改良普及所と統合
17年 (2005)	4月	農林水産部より企画部に移り, 水産業改良普及所と分離

[施設]

	本 場		八重山支場	
敷地面積 (㎡)		19,551		23,622
本 館 (㎡)	1階建	1,045 (研究棟含む)	1階建	248
飼育実験棟 (㎡)	3棟	914	1棟	200
開放実験棟 (㎡)	1棟	223		
魚病実験棟 (㎡)	1棟	99		
研 究 棟 (㎡)			2棟	402
屋外実験池 (㎡)	29面	281	38面	1,733
屋内実験池 (㎡)	10面	222	35面	1,141
展 示 棟 (㎡)			1階建	192
調査船	凶南丸	176トン・1,200HP	平成 7年 (1995)	3月竣工

〔組織〕

沖縄県企画部……………科学技術振興課…………… 沖縄県水産試験場（39人）



〔職員〕

（平成17年4月1日現在）

	本 場					八重山 支 場	計
	場 長	次 長	庶務課	漁業室	増殖室		
行 政 職			2			1	3
研 究 職	1	1		5	6	6	19
海 事 職			14				14
現 業 職					1	2	3
計	1	1	16	5	7	9	39

平成17年度職員名簿

本 場

場 長 (技) 川崎 一 男	主任 研究員 (技) 佐 多 忠 夫
次長兼庶務課長 (技) 勝 俣 亜 生	主任 研究員 (技) 玉 城 信
庶 務 課	主任 研究員 (技) 玉 城 英 信
主 任 (事) 志良堂 敏 子	研 究 員 (技) 中 村 博 幸
主 任 (事) 伊 敷 利 奈	研 究 員 (技) 須 藤 裕 介
漁 業 室	農 業 技 術 補 佐 員 吉 里 文 夫
研究主幹兼室長 (技) 島 田 和 彦	図 南 丸
主 任 研 究 員 (技) 海老沢 明 彦	船 長 (技) 外 間 實
主 任 研 究 員 (技) 近 藤 忍	機 関 長 (技) 安次富 清 栄
研 究 員 (技) 下 條 武	通 信 長 (技) 大 田 茂
研 究 員 (技) 福 田 将 数	主 任 航 海 士 (技) 横 田 森 夫
増 殖 室	主 任 航 海 士 (技) 上 原 英 雄
研究主幹兼室長 (技) 金 城 清 昭	主 任 機 関 士 (技) 翁 長 安 憲
	主 任 機 関 士 (技) 新 崎 悟
	主 任 (技) 豊見山 彰 彦

主 任 (技) 新 垣 昇	主 任 (技) 平安名 盛 正
主 任 (技) 浜 川 隆 男	主 任 (技) 池 城 賢 良
主 任 (技) 桃 原 慧	主 任 (技) 柴 田 真 琴

八重山支場

支 場 長 (技) 照 屋 忠 敬	研 究 員 (技) 太 田 格
主 事 (事) 入 部 千佳子	研 究 員 (技) 狩 俣 洋 文
主 任 研 究 員 (技) 久 保 弘 文	農 業 技 術 補 佐 員 吳 屋 秀 夫
研 究 員 (技) 仲 盛 淳	農 業 技 術 補 佐 員 仲 本 光 男
研 究 員 (技) 岩 井 憲 司	

平成17年度職員異動(転入・転出)

退 職

津 波 真 栄

転 出

(旧所属)

渡 辺 利 明 (漁業室長) 栽培漁業センターへ
 諸見里 聰 (増殖室主任研究員) 水産課へ
 宮 城 吉 男 (図南丸主任) 漁業取締船「はやて」へ

転 入

(現所属)

島 田 和 彦 (研究主幹兼室長) 水産課から
 須 藤 裕 介 (増殖室研究員) 海洋深層水研究所から
 浜 川 隆 男 (図南丸主任) 漁業取締船「はやて」から